

Syllabus

令和5年度

青森歯科医療専門学校

歯科衛生士科

基礎分野

科学的思考の基礎

生物学

時間数	32時間（4時間×8回）
担当者	福澤 司（学校現場における教員経験(36年)のある者が非常勤講師として専門科目を担当する。）
一般目標	歯科医学の基礎である生物を学び、生命の基本構造への理解を深める。
成績評価	定期試験、授業態度、出席状況等の総合評価。
教科書	歯科衛生学シリーズ「生物学」 医歯薬出版
参考書	必要に応じ、随時プリントを配布。

回数	月日	講義内容
1	4月21日	1. 生物学とは。 2. 生命とは何か。 3. 生命の誕生、変遷
2	4月28日	1. 細胞成分。DNA 2. 細胞構造 3. 細胞呼吸
3	5月12日	1. 細胞のさまざまな活動 2. ATPの作用例 3. 細胞呼吸
4	5月19日	1. 細胞分裂 2. 組織 3. 器官系
5	6月2日	1. 消化器系 2. 循環器系 3. 泌尿器系 4. メンデルの法則
6	6月9日	1. メンデルの遺伝例 2. 遺伝子はDNA。形質転換 3. トリプレット 4. オペロン説
7	6月16日	1. 発生 2. 感覚器 3. 神経系 4. 自律神経
8	6月23日	1. ホルモン(内分泌) 2. 体液 3. 免疫 4. アレルギー拒絶反応

基礎分野

科学的思考の基礎

化 学

時 間 数	30 時間 (2時間×15回)
担 当 者	工藤 貴正 (学校現場における教員経験(37年)のある者が非常勤講師として専門科目を担当する。)
一 般 目 標	専門知識を習得するために必要となる基本的化合物の名称および化学式を理解する。
成 績 評 価	定期試験、授業態度、出席状況等の総合評価。
教 科 書	歯科衛生学シリーズ「化学」医歯薬出版
参 考 書	

回数	月 日	講 義 内 容
1	5月9日	化学とは何か。一般概念。物質の構造。
2	5月16日	原子の構造、同位元素、周期表、原子量。
3	5月23日	原子の構造を知る。ボーアモデルを用いての表現
4	5月30日	化学式の成り立ちの法則性を学習する。
5	6月6日	原子の色について。
6	6月8日	物質の三態(気体について)
7	6月13日	化学式の名前を答える。
8	6月15日	モルの概念 比例式の利用
9	6月20日	モル、分子量、体積の重要項目を学ぶ。
10	6月22日	モルの計算について
11	6月27日	化学反応式の作り方を学ぶ。
12	6月29日	化学反応式の意味を学ぶ。
13	7月4日	物質の三態、体積の増加を学ぶ。
14	7月6日	無機、有機化合物のちがい、笑気ガス、アマルガムについて
15	7月13日	全体のまとめ、復習

基礎分野

人間と社会生活の理解

心理学

時間数	32時間（4時間×8回）
担当者	斎藤 千夏(学校現場における教員経験(17年)のある者が、非常勤講師として専門科目を担当する。)
一般目標	行動や現象を手がかりに「心」を科学的に探求することを学び、自身や他者をより深く理解することを目的とする。また、人間関係を学習して、職場や患者との円滑な関係作りに役立てる。
成績評価	定期試験、ミニレポート、授業態度、出席状況等の総合評価。
教科書	歯科衛生学シリーズ「心理学」 医歯薬出版
参考書	必要に応じ、配布。

回数	月日	講義内容
1	6月2日	・エンカウンターを用いた自己紹介 ・心理学の発展と研究方法 ・知覚、錯覚について
2	6月9日	・ストレスの心理学 ・CBTのワーク アセスメントシートを用いたコーピングの確認
3	6月16日	・パーソナリティの心理学 ・エゴグラム(心理テスト)による自己理解
4	6月23日	・動機づけについて ・カウンセリング実習(表情等のよみとり、動作法によるリラクゼーション)
5	6月30日	・学習の心理学 ・感情の心理学 ・カウンセリング実習(リフレーニングの実習)
6	8月25日	・感情の心理学 ・カウンセリング実習(話の聞き方の実習)
7	9月1日	・発達心理学 ・カウンセリング実習(共感尺度を用いた応答練習)
8	9月15日	・発達心理学 ・カウンセリング実習(共感尺度を用いた応答練習)

基礎分野

人間と社会生活の理解

社会学

時間数	16時間（4時間×4回）
担当者	宍戸 聡 純（学校現場における教員経験(36年)のある者が、非常勤講師として専門科目を担当する。）
一般目標	現代の社会生活にいろいろな面に対応できる人間性を養うために、社会の変化、変動の動向を学び、社会のあり方や、自分の生き方を考察する。
成績評価	試験、ミニレポート、授業態度、出席状況等の総合評価。
教科書	
参考書	必要に応じ、資料配布。

回数	月日	講義内容
1	6月12日	人間社会とコミュニケーションの交わりと意識
2	6月19日	社会学の世界「流行」
3	6月26日	社会学の世界「文化」
4	7月3日	社会学の世界「社会の動き」

基礎分野

人間と社会生活の理解

英 語I(英会話、歯科英語)

時 間 数	30時間 (2時間×15回)
担 当 者	鹿内 史 (学校現場における教員経験(19年)のある者が、非常勤講師として専門科目を担当する。)
一 般 目 標	グローバルな視点で物事を捉えるために英語での4技能(読む・書く・聞く・話す)に関する基礎学力を習得する。
成 績 評 価	定期試験、授業態度、出席状況等の総合評価。
教 科 書	「どんな英語オンチでも話せる！伝わる！スタッフのための歯科英語」 医歯薬出版
参 考 書	資料配布。

回数	月 日	講 義 内 容
1	4月19日	基礎用語・基礎会話(1)、多文化理解(1)コミュニケーション
2	4月26日	基礎用語・基礎会話(2)、多文化理解(2)異文化コミュニケーション
3	7月5日	基礎用語・基礎会話(3)、多文化理解(3)コミュニケーションスタイル
4	7月12日	1、電話応対、多文化理解 (4)言語コミュニケーション
5	7月19日	2、受付多文化理解(5)非言語コミュニケーション
6	8月23日	3、ユニット案内・4、痛みの問診、多文化理解 (6)価値観
7	8月30日	5、X線写真、多文化理解(7)自分を知る
8	9月6日	6、口腔内写真・7、麻酔、多文化理解 (8)異文化コミュニケーションスキル
9	9月13日	8、印象採得・9、仮封、多文化理解 (9)ステレオタイプ・偏見
10	9月20日	10、抜歯後の注意・11、歯周病検査、多文化離開 (10)異文化受容
11	10月4日	12、スケーリング、多文化理解 (11)異文化トレーニング
12	10月11日	13、ブラッシング指導、多文化理解 (12)差別を考える
13	10月18日	14、ホワイトニング、多文化理解 (13)世界のあいさつ
14	10月25日	15・16小児歯科、多文化理解 (14)世界の言語
15	11月1日	17、薬の処方・18、診療が終わったら、多文化理解 (15)世界について知ろう

専門基礎分野

人体(歯・口腔を除く)の構造と機能

解剖学(含む組織発生)

時間数	46時間(2時間×23回)
担当者	松井 美保子(医療現場における臨床検査技師経験(27年)のある者が、非常勤講師として専門科目を担当する。)
一般目標	ヒトの体がどのように構築されているか、理解する。 人体が一個の受精卵から、どのような概要をたどり出来上がっていくか理解する。
成績評価	定期試験、ミニレポート、授業態度、出席状況等の総合評価。
教科書	歯科衛生学シリーズ「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」 医歯薬出版
参考書	必要に応じ、資料配布。

回数	月 日	講 義 内 容
1	4月18日	解剖学で学ぶこと。
2	4月25日	細胞と組織
3	5月2日	発生
4	5月9日	発生
5	5月16日	骨格系
6	5月22日	骨格系
7	5月23日	筋と運動
8	5月29日	筋と運動
9	5月30日	消化・吸収
10	6月5日	消化・吸収
11	6月6日	循環
12	6月13日	循環
13	6月20日	循環
14	6月27日	感覚
15	7月3日	神経系

専門基礎分野

歯・口腔の構造と機能

口腔解剖学(口腔付近の解剖学)

時間数	60時間 (2時間×30回)
担当者	野坂 洋一郎 (学校現場における教員経験(51年)のある者が、非常勤講師として専門科目を担当する。)、三原 睦子 (学校現場における教員経験(44年)のある者が、講師として専門科目を担当する。)
一般目標	歯科衛生士としての行動の基礎となる、歯牙及び口腔周辺の構造、しくみを理解する。 各歯の形態をより深く理解するために、スケッチを行う。
成績評価	定期試験、ミニレポート、製作物、授業態度、出席状況等の総合評価。
教科書	歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 医歯薬出版
参考書	学建書院 口腔顎顔面解剖ノート 必要に応じ、資料配布。

回数	月 日	講 義 内 容
1	4月17日	1章口腔付近の解剖学
2		口腔の区分と範囲、頭蓋骨、その種類、脳頭蓋腔
3	4月24日	1章口腔付近の解剖学
4		上顎骨 眼窩鼻腔、副鼻腔、翼口蓋下窩、上顎歯に分布する神経、血管
5	5月1日	1章口腔付近の解剖学
6		下顎骨 下顎体、下顎枝、咀嚼筋
7	5月8日	1章口腔付近の解剖学
8		下顎骨 舌骨筋、表情筋、歯の植立、下顎歯に分布する神経、血管
9	5月15日	1章口腔付近の解剖学
10		顎関節、摂食嚥下
11	5月29日	2章歯の解剖学
12		歯の概論 ・歯の形態、交換、植率、組織、形態
13	6月5日	2章歯の解剖学
14		歯の種類、歯の表示法、歯式、用語
15	6月19日	2章歯の解剖学
16		永久歯総論、永久歯の形成、石灰化、萌出、歯根完成)
17	7月3日	2章歯の解剖学
		永久歯(前歯部)
18	7月5日	2章歯の解剖学
		永久歯(前歯部)、永久歯(小臼歯)
19	7月12日	2章歯の解剖学
		永久歯(小臼歯)
20	7月18日	2章歯の解剖学
		永久歯(上顎大臼歯)
21	7月19日	2章歯の解剖学
		永久歯(下顎大臼歯)
22	8月23日	2章歯の解剖学
		乳歯(全体の特徴、乳前歯)
23	8月30日	2章歯の解剖学
		乳歯(全体の特徴、乳前歯)

口腔解剖学(含歯牙解剖)

24	9月1日	2章歯の解剖学 特色のある歯の形態。歯の配列と咬合、歯の発生
25	9月6日	歯のスケッチ 前歯・犬歯
26	9月8日	歯のスケッチ 上顎右側第一大臼歯 口腔顎顔面解剖ノート参照
27	9月13日	歯のスケッチ 下顎右側第一大臼歯
28		口腔顎顔面解剖ノート参照
29	9月22日	まとめ
30		

専門基礎分野

疾病の成り立ちおよび回復過程の促進

薬理学・歯科薬理学

時間数	30時間（2時間×15回）
担当者	丸山 勲（薬局における薬剤師経験(47年)のある者が、非常勤講師として専門科目を担当する。）
一般目標	薬品の生態に対する作用を知り、その作用機序について論理的に理解する。 歯科臨床にて、重要性の高い薬剤について臨床術式と関連性を持たせて理解する。
成績評価	定期試験、授業態度、出席状況等の総合評価。
教科書	歯科衛生学シリーズ「疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学 第2版」医歯薬出版
参考書	必要に応じ、資料配布。

回数	月 日	講 義 内 容
1	8月23日	総論 薬物の定義と分類、法律における薬物の分類
2	8月30日	総論 剤形による薬物の分類、薬物の保存、薬物の作用、用量と作用
3	9月6日	薬理作用、薬物の生体膜通過様式、薬物の動態について
4	9月14日	身体における薬物の働き
5	9月20日	薬物投与法、薬物力学、薬物反復効果、薬物併用効果、薬物副作用
6	10月4日	中枢神経系に作用する薬物 全身麻酔薬、吸入麻酔薬、催眠薬、向精神薬、抗てんかん薬
7	10月11日	鎮痛薬 痛覚伝達通路について、麻薬性鎮痛薬と末梢、 末梢神経の分類 自律神経系について
8	10月18日	自律神経作用薬
9	10月25日	神経伝導のしくみ 局所麻酔薬の作用機序、構造と分類
10	11月1日	局所麻酔薬の代謝、効果に与える因子、適用法、副作用
11	11月8日	循環系に作用する薬物 高血圧治療薬、不整脈治療薬、心不全治療薬、狭心症治療薬、脂質異常症治療薬
12	11月15日	血液と薬 出血と薬、抗凝血薬、凝固の機序 骨粗鬆症と治療薬
13	11月29日	糖尿病と歯周病の関係
14	12月6日	感染症と薬 基本的事項、作用機序～細胞壁とタンパク質合成、主な抗感染症薬
15	12月13日	消毒薬 作用機序、影響を与える因子、主な消毒薬
16	1月17日	う蝕発生機序 う蝕の予防と薬物
17	1月24日	歯周病と薬物 歯髄疾患と薬物

専門基礎分野

疾病の成り立ちおよび回復過程の促進

微生物学・口腔微生物学

時間数	30時間（2時間×15回）
担当者	松井 美保子（医療現場における臨床検査技師経験(27年)のある者が、非常勤講師として専門科目を担当する。）
一般目標	微生物についての全般的な理解を深めると共に、ヒトに疾患を引き起こす微生物について、その病原性に関わる因子や、病原微生物を排除する生体側の機構について理解する。また、口腔感染症及び、それに対する防御機構を理解する。
成績評価	定期試験、授業態度、出席状況等の総合評価。
教科書	歯科衛生学シリーズ「疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学」 医歯薬出版
参考書	必要に応じ、資料配布。

回数	月 日	講 義 内 容
1	9月12日	疾病と微生物
2	9月19日	疾病と微生物 微生物の病原性
3	10月2日	微生物の病原性
4	10月10日	微生物の病原性
5	10月16日	微生物の病原性
6	10月17日	微生物の病原性
7	10月23日	宿主防御機序と免疫
8	10月24日	宿主防御機序と免疫
9	10月30日	宿主防御機序と免疫
10	10月31日	口腔内常在微生物
11	11月6日	口腔感染症
12	11月7日	院内感染対策と滅菌、消毒
13	11月13日	院内感染対策と滅菌、消毒
14	11月27日	微生物の寒天培地培養
15	11月28日	グラム染色と観察

専門基礎分野

歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会のしくみ

口腔衛生学

時間数	60時間（4時間×15回）
担当者	奥平 泰久（医療現場における臨床検査技師経験(8年)のある者が、非常勤講師として専門科目を担当する。）
一般目標	歯・口腔の健康を通じて国民のQOLの向上や自己実現への支援をはかるという 歯科衛生士の重要な役割を果たすために、臨床・地域保健の場において人々の 健康の保持・増進をはかるために必要な対応策および、基礎知識を習得する。
成績評価	定期試験、授業態度、出席状況等の総合評価。
教科書	歯科衛生学シリーズ「歯の口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学」医歯薬出版
参考書	必要に応じ、資料配布。

回数	月 日	講 義 内 容
1	8月24日	保健生態学総論 疫学、人口、健康と環境
2	8月31日	健康と環境 水、衣住、上下水道
3	9月7日	感染症
4	9月14日	食育、栄養と健康 口腔の健康、予防
5	9月21日	歯、口腔の形成。 ホルモン。 栄養、ペリクル、歯垢、歯石、バイオフィルム
6	10月5日	口腔の清掃 PMTC、歯磨材、洗口剤
7	10月12日	う蝕の予防 フッ化物
8	10月19日	フッ化物の応用
9	10月26日	歯周疾患の予防(歯肉炎・歯周炎)
10	11月9日	妊産婦の口腔保健管理 地域保健
11	11月16日	健康日本21 糖尿病と歯周疾患の関係
12	11月30日	母子保健 学校保健
13	12月7日	学校保健 成人・老人保健
14	12月14日	産業保健、精神保健、国際保健
15	1月25日	まとめ

専門分野

歯科衛生士概論

歯科衛生士概論(含医療倫理)

時 間 数	32時間 (4時間×8回)
担 当 者	三原睦子 (学校現場における教員経験(45年)のある者が、講師として専門科目を担当する。)
一 般 目 標	歯科衛生士教育のオリエンテーションとしての歯科医療の概要、その中での歯科衛生士の位置づけと役割を理解させる。また、歯科衛生士の意義について十分理解させ、併わせて、医療職としての倫理観を養う。
成 績 評 価	定期試験、授業態度、出席状況等の総合評価。 *授業時間内で、レポート作成やロールプレイングを行うことがある。 採点に含まれるので、欠席しないよう注意すること。
教 科 書	歯科衛生学シリーズ「歯科衛生学総論」 医歯薬出版
参 考 書	必要に応じ、随時プリントを配布。

回数	月 日	講 義 内 容
1	5月23日	歯科衛生学、歯科衛生士と健康、歯科衛生活動の対象と領域、 歯科衛生士啓蒙DVD(全衛協編)の鑑賞 自分の目指す歯科衛生士像
2	5月26日	歯科衛生の歴史 歯科衛生士業務の現状 「悲しい出来事」を読んで。
3	5月30日	予防の概念、歯科衛生の考え方、保健行動、ICF、ヒューマンニーズ、 EBM、クリティカルシンキング ・咀嚼能力判定 ケーススタディ・「診療室での待ち時間」
4	6月2日	歯科衛生課程 アセスメント、歯科衛生計画 POS、SOAP ・コミュニケーションの取り方
5	6月6日	歯科衛生士法と歯科衛生業務 関連法規、安全管理 (リスクマネジメント:医療事故とヒヤリハット、 ハインリッヒの法則、感染症対策)
6	6月9日	歯科衛生士と医療倫理(守秘義務、医療人としての宣言、誓い、綱領等を含む) ・コミュニケーションの取り方(ペアワーク) 「開かれた質問、閉ざされた質問」
7	6月13日	歯科衛生士の活動と組織 最近のニュースから。
8	6月16日	海外における歯科衛生士 人を思いやるコミュニケーション まとめ

専門分野

臨床歯科医学

保存修復学

時 間 数	52時間 (4時間×13回)
担 当 者	津嶋克正(歯科医院における歯科医師経験(32年)のある者が、非常勤講師として専門科目を担当する。)、山本明義(歯科医院における歯科医師経験(28年)のある者が、非常勤講師として専門科目を担当する。)
一 般 目 標	う蝕、歯周疾患などの疾病に対する予防と治療に際し、適切な補助を行うために必要な知識を習得する。
成 績 評 価	定期試験、授業態度、出席状況等の総合評価。
教 科 書	歯科衛生学シリーズ「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「歯周病学第2版」医歯薬出版
参 考 書	必要に応じ、随時プリントを配布。

回数	月 日	講 義 内 容
1	6月15日	(保存修復) 歯の保存修復の種類、窩洞と保存修復治療
2	6月22日	(保存修復) 直接法修復、間接法修復
3	6月29日	(歯内療法) 歯内療法学の概要、抜髄法、
4	7月6日	(歯内療法) 根管治療法、根管充填
5	7月13日	(歯内療法) 外科的歯内療法、歯内療法における歯科衛生士の役割、歯のホワイトニング
6	11月2日	(歯周療法) 歯周療法とは。正常な歯周組織の構造と機能
7	11月16日	(歯周療法) 歯周疾患の分類、歯周医学
8	11月30日	(歯周療法) 歯周治療の進め方、歯周疾患の診査
9	12月7日	(歯周療法) 歯周基本療法
10	12月14日	(歯周療法) 歯周外科治療
11	1月25日	(歯周療法) 歯周治療としてのリハビリテーション
12	2月1日	(歯周療法) 歯周治療における歯科衛生士の役割:歯周治療の進め方、歯周組織検査・診断時補助 全身状態に対するスケーリング、ルートプレーニング
13	2月8日	(歯周療法) 歯周治療における歯科衛生士の役割:リスクファクターなどに対する指導、SRP 歯科衛生士の役割:リハビリテーション、メンテナンス、診療室と器具器材の管理

専門分野

臨床歯科医学

障害者・高齢者歯科疾患論

時間数	32時間(8時間×4回)
担当者	高満 幸宜(歯科医院における歯科医師経験(37年)のある者が、非常勤講師として専門科目を担当する。)、赤穂和弘(歯科医院における歯科医師経験(32年)のある者が、非常勤講師として専門科目を担当する。)
一般目標	身体的、知的あるいは精神的な障害を有する歯科患者について理解し、対象者に対する歯科診療、保健指導等について習得する。
成績評価	定期試験、授業態度、出席状況等の総合評価。
教科書	歯科衛生学シリーズ「障害者歯科 第2版」「高齢者歯科 第2版」医歯薬出版
参考書	必要に応じ、随時プリント等を配布。

回数	月日	講義内容
1	5月29日	社会保障と医療、医療のあるべき姿、年齢区分と疾病、各年齢の特徴 患者の全身状態の把握、バイタルサイン 各種健診と成人健診の実習、発達指標とチェックの実際、老化、高齢者と疾患 高齢症候群、認知症とパーキンソン病、高齢者の水分管理、 障害者・有病者とISについて、ISの実習
2	5月29日	高齢者の口腔内の特徴、ドライマウス、顎関節症、高齢者と薬剤、 要介護の原因疾患 歯を失う原因、咬むことの効用、障害者の分類と特徴、介護保険制度
3	6月1日	介護保険制度と歯科治療、介護保険と口腔機能向上、 口腔ケアの実際(ブラッシング、食生活指導)
4	6月1日	高齢者をとりまく社会と環境について 高齢社・障害者歯科まとめ
5	6月5日	障害者の定義 発達障害について、連携をはかる職種、自閉症
6	6月5日	脳性麻痺 発達障害について、自閉症について学ぶ
7	6月8日	感覚、視覚、聴覚障害 てんかん、障害者と薬剤について
8	6月8日	障害者の歯科医療と行動調整 健康支援と口腔衛生管理

専門分野

歯科予防処置論

う蝕・歯周疾患予防処置法 I (第1学年)

時 間 数	120時間(2時間×60回)
担 当 者	西村瞳(学校現場と歯科医院における教員経験(17年)、歯科衛生士経験(5年)のある者が、専任教員として専門科目を担当する。)、三原 睦子(学校現場における教員経験(45年)のある者が、講師として専門科目を担当する。)、若松遥香(学校現場と歯科医院における教員経験(3年)、歯科衛生士経験(9年)のある者が、専任教員として専門科目を担当する。)、小笠原郁江(学校現場と歯科医院における教員経験(35年)、歯科衛生士経験(4年)のある者が、専任教員として専門科目を担当する。)
一 般 目 標	予防的歯石除去を行うために必要な知識と技術、態度を模型上及び学生相互実習によって習得する。
成 績 評 価	実技、筆答、授業態度、出席状況等の総合評価。
教 科 書	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」医歯薬出版
参 考 書	必要に応じ、随時プリントを配布。

回数	月 日	講 義 内 容
1	4月19日	歯科予防処置総論 I 歯科予防処置 II 予防的歯石除去法 III う蝕予防処置法
2	4月19日	〃
3	4月25日	I 章 基礎知識 ・ 歯と歯周組織の構造 ・ 付着物、沈着物
4	4月25日	〃
5	5月1日	う蝕予防の基礎知識
6	5月1日	〃
7	5月2日	歯周病の基礎知識
8	5月2日	〃
9	5月22日	ミラー・ピンセット・探針操作訓練(顎模型上) 使用目的 種類 使用法 操作練習
10	5月22日	〃
11	5月24日	プロービング ・プローブの種類と特徴 ・基本的操作方法 ・記録の取り方
12	5月24日	〃
13	6月1日	小窩裂溝填塞法 ・術式 ・器具 ・薬剤の取り扱い法と管理方法
14	6月1日	〃
15	6月12日	フッ化物の応用 ・基礎知識 ・歯面塗布法 ・洗口法
16	6月12日	〃

う蝕・歯周疾患予防処置法Ⅰ（第1学年）

回数	月 日	講 義 内 容
17	6月15日	プロービング (マネキン実習)・検査、記録
18	6月15日	プロービング (マネキン実習)・検査、記録
19	6月22日	フッ化物洗口法
20	6月22日	〃
21	6月29日	歯の動揺度 ・ウォーキングストローク
22	6月29日	〃
23	7月6日	スケーラーの概要 ・種類 ・形態 ・操作上の注意 ・手用器具の基本操作(4原則 把持 固定)
24	7月6日	スケーラー及びキュレットの基本操作 爪面での操作 固定 運動の練習
25	7月14日	スケーリング ①(マネキン実習) 下顎前歯部
26	7月14日	〃
27	7月20日	スケーリング ②(マネキン実習) 上顎前歯部
28	7月20日	〃
29	8月25日	スケーリング ③ (マネキン実習) 下顎左側臼歯部
30	8月25日	〃
31	9月1日	スケーリング ④ (マネキン実習) 下顎右側臼歯部
32	9月1日	〃
33	9月12日	スケーリング ⑤ (マネキン実習) 上顎左側臼歯部
34	9月12日	〃
35	9月19日	スケーリング ⑥ (マネキン実習) 上顎右側臼歯部
36	9月19日	〃
37	9月29日	スケーリング (マネキン実習) 部位別操作 SRP 試験練習
38	9月29日	〃

う蝕・歯周疾患予防処置法 I (第1学年)

回数	月 日	講 義 内 容
39	10月6日	う蝕活動試験 ・意義 ・条件 ・目的 ・評価
40	10月6日	〃
41	10月10日	手用スケーラーのシャープニング
42	10月10日	手用スケーラーのシャープニング
43	11月8日	超音波スケーラー、エアスケーラー、歯面清掃器について
44	11月8日	〃
45	11月15日	フッ化ジアンミン銀について ・目的 ・術式 ・注意事項 ・操作法
46	11月15日	〃
47	12月5日	PMTQについて ・目的 ・術式 ・注意事項 ・操作法
48	12月5日	〃
49	12月13日	〃
50	12月13日	〃
51	1月22日	超音波スケーラー、エアスケーラー、歯面清掃器 (模型上実習)
52	1月22日	〃
53	1月24日	PMTQ (模型上実習)
54	1月24日	〃
55	1月29日	フッ化ジアンミン銀溶液の取り扱い実習
56	1月29日	〃
57	1月30日	う蝕活動試験実習 ・RDテスト ・カリオスタット
58	1月30日	〃
59	2月1日	フッ化物歯面塗布綿球法 (実習)
60	2月1日	〃

専門分野

歯科予防処置論

う蝕・歯周疾患予防処置法Ⅱ(第2学年)

時 間 数	90時間(2時間×45回)
担 当 者	西村 瞳(学校現場と歯科医院における教員経験(17年)、歯科衛生士経験(5年)のある者が、専任教員として専門科目を担当する。)、三原 睦子(学校現場における教員経験(45年)のある者が、講師として専門科目を担当する。)、若松 遥香(学校現場と歯科医院における教員経験(3年)、歯科衛生士経験(9年)のある者が、専任教員として専門科目を担当する。)、小笠原 郁江(学校現場と歯科医院における教員経験(35年)、歯科衛生士経験(4年)のある者が、専任教員として専門科目を担当する。)
一 般 目 標	歯周病予防処置として1年次に習得した技術を高めるとともに、う蝕予防処置について知識と技術を習得する。
成 績 評 価	実技、筆答、授業態度、出席状況等の総合評価。
教 科 書	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」医歯薬出版
参 考 書	必要に応じ、随時プリントを配布。

回数	月 日	講 義 内 容
1	4月21日	感染予防対策と偶発症 相互間実習について
2	4月21日	〃
3	4月25日	超音波スケーラー、エアスケーラー、歯面清掃器 (空き缶実習)
4	4月25日	〃
5	4月26日	歯周組織相互間実習
6	4月26日	〃
7	4月27日	SRP相互間実習 ①
8	4月27日	〃
9	5月2日	SRP相互間実習 ②
10	5月2日	〃
11	5月9日	SRP相互間実習 ③
12	5月9日	〃
13	5月10日	SRP相互間実習 ④
14	5月10日	〃
15	5月23日	SRP相互間実習 ⑤
16	5月23日	〃

う蝕・歯周疾患予防処置法Ⅱ(第2学年)

回数	月 日	講 義 内 容
17	5月25日	SRP相互間実習 ⑥
18	5月25日	"
19	5月26日	小窩裂溝填塞法、フッ化ジアミン銀 術式実習
20	5月26日	"
21	5月30日	フッ化物応用 フッ化物歯面塗布綿球法 相互間実習
22	5月30日	"
23	6月2日	SRP実技試験練習
24	6月2日	"
25	6月7日	PMTc相互間実習
26	6月7日	"
27	6月9日	超音波スケーラー相互間実習
28	6月9日	"
29	6月16日	う蝕活動試験検査実習
30	6月16日	"
31	6月20日	SRP実技試験
32	6月20日	"
33	6月21日	歯面清掃器相互間実習
34	6月21日	"
35	7月4日	SRP相互間実習
36	7月4日	"
37	7月5日	プロベング検査、SRP相互間実習
38	7月5日	"

専門分野

歯科予防処置論

う蝕・歯周疾患予防処置法Ⅲ(第3学年)

時 間 数	60時間(2時間×30回)
担 当 者	西村瞳(学校現場と歯科医院における教員経験(17年)、歯科衛生士経験(5年)のある者が、専任教員として専門科目を担当する。)、三原 睦子(学校現場における教員経験(45年)のある者が、講師として専門科目を担当する。)、若松遥香(学校現場と歯科医院における教員経験(3年)、歯科衛生士経験(9年)のある者が、専任教員として専門科目を担当する。)、小笠原郁江(学校現場と歯科医院における教員経験(35年)、歯科衛生士経験(4年)のある者が、専任教員として専門科目を担当する。)
一 般 目 標	歯科臨床の場で、う蝕・歯周予防処置を行うにあたり、必要な知識と技術、態度をマネキン実習・学生相互実習を通し習得する。
成 績 評 価	実技、筆答、授業態度、出席状況等の総合評価。
教 科 書	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」医歯薬出版
参 考 書	必要に応じ、随時プリントを配布。

回数	月 日	講 義 内 容
1	7月20日	歯周組織検査 相互間実習
2	7月20日	〃
3	8月25日	超音波スケーラーによる相互間スケーリング実習 ①
4	8月25日	〃
5	8月29日	超音波スケーラーによる相互間スケーリング実習 ②
6	8月29日	〃
7	8月30日	SRP相互間スケーリング実習
8	8月30日	〃
9	8月31日	SRP相互間スケーリング実習 ① (アイルーベ着用)
10	8月31日	〃
11	9月1日	SRP相互間スケーリング実習 ② (アイルーベ着用)
12	9月1日	〃
13	9月4日	SRP相互間スケーリング実習 ③ (アイルーベ着用)
14	9月4日	〃
15	9月19日	歯面研磨相互間実習
16	9月19日	〃

う蝕・歯周疾患予防処置法Ⅲ(第3学年)

回数	月 日	講 義 内 容
17	9月21日	歯面研磨相互間実習 (アイルーベ着用)
18	9月21日	〃
19	9月26日	PMTC相互間実習
20	9月26日	〃
21	10月2日	PMTC相互間実習 (アイルーベ着用)
22	10月2日	〃
23	10月4日	超音波スケーラーによる相互間スケーリング実習
24	10月4日	〃
25	10月10日	歯肉マッサージ相互間実習
26	10月10日	〃
27	10月13日	〃
28	10月13日	〃
29	11月13日	SRP相互間実習
30	11月13日	〃

専門分野

歯科予防処置論

口腔保健管理法

時 間 数	48時間(4時間×12回)
担 当 者	原田千明(医療現場における歯科衛生士経験(24年)のある者が、非常勤講師として専門科目を担当する。)、西村瞳(学校現場と歯科医院における教員経験(17年)、歯科衛生士経験(5年)のある者が、専任教員として専門科目を担当する。)
一 般 目 標	歯科臨床の場で、個々の患者に適した口腔管理を行うにあたり、必要な知識と技術、態度を習得する。
成 績 評 価	定期試験、授業態度、出席状況等の総合評価。
教 科 書	よくわかる歯科衛生過程 全国歯科衛生士教育協議会(編)
参 考 書	必要に応じ、随時プリントを配布。

回数	月 日	講 義 内 容
1	9月1日	口腔疾患予防の臨床(基礎知識)
2		
3	9月8日	生涯を通じた口腔保健管理
4		
5	9月15日	業務記録(種類と形式)
6		
7	10月18日	臨床の場における業務記録
8		
9	10月25日	口腔保健管理の演習
10		
11	11月1日	相互実習(情報収集)
12		
13	11月8日	相互実習(問題の抽出)
14		
15	11月10日	相互実習(計画の組み立て)
16		
17	11月13日	相互実習(実施・経過の記録記入)
18		
19	11月14日	相互実習(評価)
20	11月15日	まとめ
21		
22	11月17日	まとめ
23		

専門分野

歯科保健指導論

保健指導 I (1学年)

時 間 数	60時間 (2時間×30回)
担 当 者	西村瞳(学校現場と歯科医院における教員経験(17年)、歯科衛生士経験(5年)のある者が、専任教員として専門科目を担当する。)、三原 睦子(学校現場における教員経験(45年)のある者が、講師として専門科目を担当する。)、若松遥香(学校現場と歯科医院における教員経験(3年)、歯科衛生士経験(9年)のある者が、専任教員として専門科目を担当する。)、小笠原郁江(学校現場と歯科医院における教員経験(35年)、歯科衛生士経験(4年)のある者が、専任教員として専門科目を担当する。)
一 般 目 標	ライフステージ別に多様な生活習慣、健康状態にある個人および集団対して最も適した歯科保健行動がとれるように専門的立場から支援できる能力を養う。特に、口腔清掃の技術と個人指導の基礎について学ぶ。
成 績 評 価	実技、筆答、授業態度、出席状況等の総合評価。
教 科 書	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」 医歯薬出版
参 考 書	必要に応じ、随時プリントを配布。

回数	月 日	講 義 内 容
1	4月17日	歯科保健指導概要
2	4月19日	健康の概念
3	4月21日	口腔の基礎知識
4	4月24日	口腔の機能について
5	4月26日	1. 2年合同実習 歯牙検出、口腔衛生指導①
6	4月28日	摂食・嚥下のしくみ
7	5月2日	保健行動支援のための基礎知識①
8	5月10日	保健行動支援のための基礎知識②
9	5月10日	食生活指導(栄養指導)のための基礎について①
10	5月12日	食生活指導(栄養指導)のための基礎について②
11	5月12日	食生活指導(栄養指導)のための基礎について③
12	5月15日	口腔清掃方法 ・歯刷子について
13	5月15日	口腔清掃方法 ・歯磨剤について ・洗口剤
14	5月16日	口腔清掃方法 ・歯垢顕示薬、デンタルフロスについて
15	5月16日	口腔清掃方法 ・補助清掃用具の使用法(歯垢顕示薬、デンタルフロス)、実習

歯科保健指導 I (第1学年)

回数	月 日	講 義 内 容
16	5月17日	1. 2年合同実習 歯牙検出、口腔衛生指導②
17	5月19日	口腔清掃方法 ・補助清掃用具の使用法(歯間ブラシ)実習
18	11月1日	口腔清掃方法 ・毛先を使った方法
19	11月2日	口腔清掃方法 ・脇腹を使った方法
20	11月15日	口腔清掃方法 ・ブラッシング法 ・補助清掃用具
21	11月29日	刷掃指導の手順
22	12月6日	分析のためのデーター(1) ・プラーク、歯石の指数① PCRについて
23	12月13日	電動歯ブラシ、ウォーターピックについて
24	1月17日	電動歯ブラシ、ウォーターピック実習
25	1月22日	医療面接
26	1月24日	口腔清掃方法 スクラッピング法、フロッシング
27	1月31日	歯科衛生業務記録について ・健診記号、口腔内診査
28	2月1日	口腔内付着物・沈着物について ・歯垢顕示薬を使用した相互間実習①(PCR)
29	2月5日	口腔内付着物・沈着物について ・歯垢顕示薬を使用した相互間実習②(PCR)
30	2月6日	ライフステージに対応した歯科衛生介入 妊産婦期

専門分野

歯科保健指導論

保健指導Ⅱ(2学年)

時 間 数	60時間 (2時間×30回)
担 当 者	西村瞳(学校現場と歯科医院における教員経験(17年)、歯科衛生士経験(5年)のある者が、専任教員として専門科目を担当する。)、三原 睦子(学校現場における教員経験(45年)のある者が、講師として専門科目を担当する。)、若松遥香(学校現場と歯科医院における教員経験(3年)、歯科衛生士経験(9年)のある者が、専任教員として専門科目を担当する。)、小笠原郁江(学校現場と歯科医院における教員経験(35年)、歯科衛生士経験(4年)のある者が、専任教員として専門科目を担当する。)
一 般 目 標	ライフステージ別に多様な生活習慣、健康状態にある個人、および集団に対して最も適した歯科保健行動がとれるように専門的立場から支援できる能力を養う。 特に集団を対象とした衛生教育について学ぶ。
成 績 評 価	実技、筆答、授業態度、出席状況等の総合評価。
教 科 書	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」医歯薬出版
参 考 書	必要に応じ、随時プリントを配布。

回数	月 日	講 義 内 容
1	4月10日	技工士学生の歯牙検出、口腔衛生指導
2	4月10日	乳幼児における口腔衛生指導 計画立案、媒体作成
3	4月11日	乳幼児における口腔衛生指導 計画立案、媒体作成
4	4月13日	乳幼児における口腔衛生指導 計画立案、媒体作成
5	4月14日	乳幼児における口腔衛生指導 計画立案、媒体作成
6	4月17日	乳幼児における口腔衛生指導 発表練習
7	4月18日	乳幼児における口腔衛生指導 発表練習
8	4月18日	ライフステージに対応した歯科衛生介入 学童期
9	4月20日	学童における口腔衛生指導 計画立案、媒体作成
10	4月21日	学童における口腔衛生指導 発表練習
11	4月21日	ライフステージに対応した歯科衛生介入 青年期
12	4月24日	ライフステージに対応した歯科衛生介入 成人期
13	4月25日	1.2年合同実習① 歯牙検出、口腔衛生指導
14	4月25日	青年期～成人期の口腔衛生指導 計画立案
15	4月26日	青年期～成人期の口腔衛生指導 指導案作成
16	4月27日	青年期～成人期の口腔衛生指導 発表練習
17	4月28日	ライフステージに対応した歯科衛生介入 老年期

歯科保健指導Ⅱ(第2学年)

回数	月日	講義内容
18	5月1日	ライフステージに対応した歯科衛生介入 老年期(義歯の取り扱い、洗浄法)
19	5月1日	配慮を要する者への歯科衛生介入 要介護高齢者
20	5月2日	配慮を要する者への歯科衛生介入 障害者
21	5月2日	配慮を要する者への歯科衛生介入 オーラルケア用品の種類、取り扱い
22	5月8日	生活習慣の指導 禁煙支援
23	5月8日	症例検討法実習① 相互間口腔診査～記録～
24	5月9日	症例検討法実習② 指導の展開
25	5月9日	症例検討法実習③ 評価
26	5月10日	症例検討法実習④ 業務記録
27	5月11日	分析のためのデーター PCR,OHI,OHI-S,
28	5月12日	各種ブラッシング法 復習
29	5月16日	1.2年合同実習② 歯牙検出、口腔衛生指導
30	5月19日	歯科衛生業務記録について ・健診記号、口腔内診査

専門分野

歯科保健指導論

保健指導Ⅲ(3学年)

時 間 数	60時間 (2時間×30回)
担 当 者	西村瞳(学校現場と歯科医院における教員経験(17年)、歯科衛生士経験(5年)のある者が、専任教員として専門科目を担当する。)、三原 睦子(学校現場における教員経験(45年)のある者が、講師として専門科目を担当する。)、若松遥香(学校現場と歯科医院における教員経験(3年)、歯科衛生士経験(9年)のある者が、専任教員として専門科目を担当する。)、小笠原郁江(学校現場と歯科医院における教員経験(35年)、歯科衛生士経験(4年)のある者が、専任教員として専門科目を担当する。)
一 般 目 標	ライフステージ別に多様な生活習慣、健康状態にある個人、および集団に対して最も適した歯科保健行動がとれるように専門的立場から支援できる能力を養う。特に訪問診療についての歯科保健指導について学ぶ。
成 績 評 価	実技、筆答、授業態度、出席状況等の総合評価。
教 科 書	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」医歯薬出版
参 考 書	必要に応じ、随時プリントを配布。

回数	月 日	講 義 内 容
1	5月11日	訪問介護について
2	5月11日	高齢者、障害(児)者の口腔ケア
3	9月15日	高齢者、障害(児)者の口腔ケア技術①
4	9月15日	高齢者、障害(児)者の口腔ケア技術②
5	9月20日	地域歯科保健活動における健康教育 乳幼児健診について
6	9月20日	母子保健事業 指導案作成
7	9月22日	母子保健事業 指導案作成
8	9月22日	母子保健事業 衛生講和発表練習
9	9月29日	母子保健事業 衛生講和発表練習
10	9月29日	ライフステージ別口腔清掃指導法 妊産婦期・乳幼児期
11	10月2日	ライフステージ別口腔清掃指導法 幼児期・学齢期
12	10月2日	ライフステージ別口腔清掃指導法 青年期・成人期
13	10月4日	喫煙者に対する指導 アセスメント
14	10月4日	喫煙者に対する指導 禁煙支援
15	10月5日	ライフステージ別口腔清掃指導法 有病者

歯科保健指導Ⅲ(第3学年)

回数	月 日	講 義 内 容
16	10月5日	口腔機能訓練について 間接訓練・直接訓練
17	10月6日	口腔機能訓練について 唾液腺マッサージ・嚥下体操
18	10月6日	口腔機能訓練 唾液腺マッサージ・嚥下体操 相互間実習
19	10月6日	要介護高齢者の衛生介入 指導計画案作成
20	10月18日	要介護高齢者の衛生介入 指導計画案発表
21	10月18日	要介護高齢者の衛生介入 指導計画案発表
22	10月25日	要介護高齢者の衛生介入 指導計画案評価
23	10月25日	分析のためのデーター PCR,OHI,OHI-S,
24	11月8日	刷掃法復習 歯ブラシ、補助用具
25	11月8日	生活習慣と食生活指導 乳幼児・学齢期
26	11月15日	生活習慣と食生活指導 成人期・高齢期
27	11月15日	ライフステージ別口腔清掃指導法 復習
28	11月16日	ライフステージ別口腔清掃指導法 復習
29	11月21日	周術期における役割
30	11月21日	大規模災害時における役割

専門分野

歯科保健指導論

栄養指導

時 間 数	30時間(2時間×15回)
担 当 者	佐々木裕美子(医療現場における管理栄養士経験(19年)のある者が、非常勤講師として専門科目を担当する。)
一 般 目 標	歯科保健指導の一環として、生化学で学んだ基礎知識を元に、歯科衛生士が個人あるいは集団の人々に、対象別に栄養・食生活指導ができる能力を身につける。
成 績 評 価	定期試験、授業態度、出席状況等の総合評価。
教 科 書	歯科衛生学シリーズ「人体の構造と機能2 栄養指導と代謝」医歯薬出版 「日本食品成分表2022八訂栄養計算ソフト・電子版付」医歯薬出版
参 考 書	必要に応じ、随時プリントを配布。

回数	月 日	講 義 内 容
1	8月24日	栄養の基礎知識 咀嚼と食品
2	8月31日	栄養の基礎知識 食事摂取基準
3	9月7日	栄養の基礎知識 食事摂取基準
4	9月14日	栄養素の働き 糖質
5	9月21日	栄養素の働き タンパク質
6	10月5日	栄養素の働き 脂質
7	10月12日	栄養素の働き ビタミン
8	10月19日	口腔保健上望ましい間食の製作 グループごとに製作計画立案。計画書を提出。
9	10月26日	口腔保健上望ましい間食の製作
10	11月2日	口腔保健上望ましい間食の製作反省
11	11月9日	栄養素の働き ミネラル
12	11月16日	栄養素の働き 水・食物繊維
13	11月30日	特殊患者への食事指導 食事バランスガイド
14	12月7日	食生活と健康
15	12月14日	食べ物と健康 まとめ

専門分野

歯科診療補助論

歯科診療補助法 I

時 間 数	120時間(2時間×60回)
担 当 者	西村 瞳(学校現場と歯科医院における教員経験(17年)、歯科衛生士経験(5年)のある者が、専任教員として専門科目を担当する。)、三原 睦子(学校現場における教員経験(45年)のある者が、講師として専門科目を担当する。)、若松 遥香(学校現場と歯科医院における教員経験(3年)、歯科衛生士経験(9年)のある者が、専任教員として専門科目を担当する。)、小笠原 郁江(学校現場と歯科医院における教員経験(35年)、歯科衛生士経験(4年)のある者が、専任教員として専門科目を担当する。)
一 般 目 標	歯科医療の現場で診療の補助、介助とその共同動作ができるように、 器材の準備と材料の取り扱いが出来るようにする。 また、医療安全と感染予防について理解し、必要な行動が出来るようにする。
成 績 評 価	実技、筆答、授業態度、出席状況等の総合評価。
教 科 書	歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「歯科材料」医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「歯科機器」医歯薬出版
参 考 書	必要に応じ、随時プリントを配布。

回数	月 日	講 義 内 容
1	4月18日	衛生材料の作製
2	4月18日	〃
3	4月20日	歯科診療補助総論
4	4月20日	〃
5	4月26日	医療安全と感染予防 手指の消毒1
6	4月26日	〃
7	5月8日	医療安全と感染予防 滅菌と消毒1
8	5月8日	〃
9	5月9日	医療安全と感染予防 滅菌と消毒1
10	5月9日	〃
11	6月26日	共同動作 1.ポジショニング ライティング
12	6月26日	〃
13	6月27日	共同動作 2.器具の受け渡し
14	6月27日	〃
15	7月4日	共同動作 器具の受け渡し、バキュームテクニック

歯科診療補助法 I (第1学年)

回数	月 日	講 義 内 容
16	7月4日	〃
17	7月7日	ラバーダム防湿法
18	7月7日	〃
19	7月12日	表面麻酔薬、主要材料の取り扱い
20	7月12日	〃
21	7月13日	印象材 1.基礎知識 2.アルジネート印象材の取り扱い
22	7月13日	〃
23	7月14日	模型材 石膏の取り扱い
24	7月14日	〃
25	7月19日	印象材 3.寒天・アルジネート印象材の取り扱い
26	7月19日	〃
27	7月21日	印象材 4.エストマー印象材の取り扱い
28	7月21日	〃
29	8月22日	相互実習の心構え
30	8月22日	〃
31	8月29日	患者誘導、ポジショニング、ライティング、バキュームテクニック実習
32	8月29日	〃
33	9月15日	〃
34	9月15日	〃
35	10月2日	合着材及び接着剤 概要・取り扱い法
36	10月2日	〃
37	10月13日	〃

歯科診療補助法 I (第1学年)

回数	月 日	講 義 内 容
38	10月13日	合着材及び接着剤 概要・取り扱い法
39	10月16日	〃
40	10月16日	〃
41	11月24日	〃
42	11月24日	仮封材 基礎知識 テンポラリーストップング、水硬性仮封材の取り扱い法
43	12月4日	〃
44	12月4日	仮封材 セメント系仮封材、仮封用軟質レジンの取り扱い法
45	12月8日	〃
46	12月8日	成形歯冠修復材 コンポジットレジン、化学重合レジン、光重合レジン of 取り扱い法
47	1月16日	〃
48	1月16日	成形歯冠修復材 ガラスアイオノマー、アマルガムの取り扱い法
49	1月19日	〃
50	1月19日	切削用器具 種類、操作法、メンテナンス。修復物の研磨について。
51	1月23日	〃
52	1月23日	隔壁法
53	1月26日	〃
54	1月29日	スタディモデルの作製(マネキンの印象採得・石膏注入・トリミング・台付け)
55	1月30日	〃
56	1月30日	スタディモデルの作製(相互間印象採得、石膏注入)
57	1月31日	〃
58	1月31日	ホワイトニング用模型作製(相互間印象採得、石膏注入)
59	2月5日	〃
60	2月5日	ホワイトニング用模型作製(トリミング・仕上げ)

専門分野

歯科診療補助論

歯科診療補助法Ⅱ(第2学年)

時 間 数	60時間(2時間×30回)
担 当 者	西村瞳(学校現場と歯科医院における教員経験(17年)、歯科衛生士経験(5年)のある者が、専任教員として専門科目を担当する。)、三原 睦子(学校現場における教員経験(45年)のある者が、講師として専門科目を担当する。)、若松遥香(学校現場と歯科医院における教員経験(3年)、歯科衛生士経験(9年)のある者が、専任教員として専門科目を担当する。)、小笠原郁江(学校現場と歯科医院における教員経験(35年)、歯科衛生士経験(4年)のある者が、専任教員として専門科目を担当する。)
一 般 目 標	歯科医療の現場で診療の補助、介助とその共同動作ができるように、器材の準備と材料の取り扱いが出来るようにする。
成 績 評 価	実技、筆答、授業態度、出席状況等の総合評価。
教 科 書	歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「歯科材料」医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「歯科機器」医歯薬出版
参 考 書	必要に応じ、随時プリントを配布。

回数	月 日	講 義 内 容
1	4月14日	歯内療法用器材セッティングと補助 抜髄、根管治療
2	4月14日	〃
3	4月19日	〃
4	4月19日	歯内療法用器材セッティングと補助 根管治療、根管充填
5	4月28日	〃
6	4月28日	〃
7	5月12日	歯冠修復用器材セッティングと補助 歯肉圧排
8	5月12日	〃
9	5月17日	歯冠修復用器材セッティングと補助 支台築造
10	5月17日	〃
11	5月19日	歯周治療用器材のセッティングと補助
12	5月19日	〃
13	5月23日	小児歯科治療用器材のセッティングと補助
14	5月23日	〃
15	5月24日	矯正歯科治療用器材のセッティングと補助
16	5月24日	〃

歯科診療補助法Ⅱ(第2学年)

回数	月 日	講 義 内 容
17	5月26日	口腔外科治療用器材のセッティングと補助
18	5月26日	〃
19	5月31日	〃
20	5月31日	〃
21	6月6日	〃
22	6月6日	手術用手洗い ガウンテクニック
23	6月23日	〃
24	6月23日	歯科補綴用器材のセッティングと補助
25	6月29日	〃
26	6月30日	臨床実習を迎えるために
27	7月7日	診療補助症例別総合練習
28	7月12日	〃
29	7月14日	〃
30	7月18日	〃

専門分野

歯科診療補助論

歯科診療補助法Ⅲ(第3学年)

時 間 数	60時間(2時間×30回)
担 当 者	西村瞳(学校現場と歯科医院における教員経験(17年)、歯科衛生士経験(5年)のある者が、専任教員として専門科目を担当する。)、三原 睦子(学校現場における教員経験(45年)のある者が、講師として専門科目を担当する。)、若松遥香(学校現場と歯科医院における教員経験(3年)、歯科衛生士経験(9年)のある者が、専任教員として専門科目を担当する。)、小笠原郁江(学校現場と歯科医院における教員経験(35年)、歯科衛生士経験(4年)のある者が、専任教員として専門科目を担当する。)
一 般 目 標	歯科医療の現場で診療の補助、介助とその共同動作ができるように、 器材の準備と材料の取り扱いが出来るようにする。 国家試験に対応した知識の向上が出来る。
成 績 評 価	実技、筆答、授業態度、出席状況等の総合評価。
教 科 書	歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「歯科材料」医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「歯科機器」医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「歯周病学」医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴」医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔」医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「咀嚼障害・咬合異常2 歯科矯正」医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「小児歯科」医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「高齢者歯科」医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「障害者歯科」医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「歯科放射線」医歯薬出版
参 考 書	必要に応じ、随時プリントを配布。

回数	月 日	講 義 内 容
1	6月1日	全身疾患をもつ患者対応の補助
2	6月1日	〃
3	8月29日	現場で起こりうるヒヤリ・ハット
4	8月29日	〃
5	8月30日	在宅訪問時の歯科診療補助
6	8月30日	〃
7	8月31日	暫間被覆冠の作製①
8	8月31日	〃
9	9月1日	暫間被覆冠の作製②
10	9月1日	〃

歯科診療補助法Ⅲ(第3学年)

回数	月 日	講 義 内 容
11	9月4日	暫間被覆冠の作製③
12	9月4日	〃
13	9月7日	口腔内写真撮影実習①
14	9月7日	〃
15	9月12日	口腔内写真撮影実習②
16	9月12日	〃
17	10月5日	口腔内写真撮影実習③
18	10月5日	〃
19	10月10日	口腔内写真撮影実習④
20	10月10日	〃
21	10月12日	口腔内写真撮影実習⑤
22	10月12日	〃
23	11月10日	① 総論、主要歯科材料の種類、取扱いと管理
24	11月10日	② 保存治療の歯科診療補助
25	11月14日	③ 補綴治療の歯科診療補助
26	11月14日	④ 口腔外科治療の歯科診療補助
27	11月17日	⑤ 矯正歯科治療の歯科診療補助
28	11月17日	⑥ 小児歯科治療の歯科診療補助
29	11月20日	⑦ 高齢者・障害者治療の歯科診療補助
30	11月21日	⑧ エックス線写真撮影時の診療補助

歯科診療補助論

歯科口腔放射線学

時 間 数	20時間 (4時間×5回)
担 当 者	市川真弓(歯科医院における歯科医師経験(25年)のある者が、非常勤講師として専門科目を担当する。)
一 般 目 標	疾患の診断等に有効なX線について学び、撮影の介助ができるようにすると共 歯周病等の患者教育に必要な、X線写真についての読み取りができるように学ぶ。
成 績 評 価	定期試験、授業態度、出席状況等の総合評価。
教 科 書	歯科衛生学シリーズ「歯科放射線」 医歯薬出版
参 考 書	必要に応じ、随時プリントを配布。

回数	月 日	講 義 内 容
1	6月21日	放射線の基礎知識、歯科医療と放射線 X線画像の形成、歯科におけるX線検査
2	6月28日	歯科におけるX線検査 口内法、パノラマ撮影、頭部X線企画撮影
3	6月28日	口内法X線撮影の実際と歯科衛生士の役割。放射線治療と口腔管理。 写真処理と画像保護の実際、撮影介助実習(上顎前歯部、臼歯部)
4	10月12日	撮影介助実習(下顎) 口内法X線写真の見方。
5	10月12日	撮影介助実習(上顎) 口内法X線写真の見方。

専門分野

臨地実習(臨床実習を含む)

臨地・臨床実習 I

時 間 数	405時間(8時間×51回)
担 当 者	各施設の実習指導教員である歯科医師や歯科衛生士が、実習施設において専門的に実習指導する
一 般 目 標	歯科衛生業務を修得するために、歯科診療の場を通して歯科衛生士として必要な知識、技術及び態度を身につける。また、ライフステージに合わせた歯科保健指導について学ぶ。
成 績 評 価	実習評価、態度、出席状況等の総合評価。
教 科 書	2年次までの専門分野で使用する各教科書
参 考 書	必要に応じ、随時プリントを配布。

回数	月 日	内 容
1	4月 ～ 11月	1) 保育園実習、幼稚園、小学校、専門学校実習 (8日間) ・指導教材、教案の作製および活用 ・園児、学童、学生、多職種とのコミュニケーション ・ライフステージに合わせた口腔衛生指導
～	10月 ～ 3月	2) 歯科診療所臨床実習 ・診療室の環境整備 ・患者誘導 ・使用器具器材準備・後片づけ ・診療介助(バキューム、ライティング、器具器材の受け渡し) ・各種検査記録(歯式、歯周検査、O'Leary) ・印象材練和と取り扱い ・各種セメントの取り扱い ・各種仮封材の補助 ・X線フィルムの現像 ・スケーリング補助 ・PMTCおよびPTC補助 ・う蝕予防処置補助(シーラント、フッ化物塗布) ・TBIおよび保健指導 ・各種器具の受け渡し
51		3) 県立中央病院歯科口腔外科実習 ・感染対応の見学 ・手指消毒および器具・器材の消毒・滅菌 ・院内の環境整備、診療前準備・後片づけ ・術前・術後の患者誘導および対応 ・患者対応のコミュニケーション ・歯科診療補助業務における共同動作 ・保健指導

専門分野

臨地実習(臨床実習を含む)

臨地・臨床実習Ⅱ

時 間 数	495時間(8時間×62回)
担 当 者	各施設の実習指導教員である歯科医師や歯科衛生士が、実習施設において専門的に実習指導する。
一 般 目 標	歯科衛生業務を修得するために、歯科診療の場を通して歯科衛生士として必要な知識、技術及び態度を身につける。また、ライフステージに合わせた歯科保健指導について学ぶ。
成 績 評 価	実習評価、態度、出席状況等の総合評価。
教 科 書	3年次までの専門分野で使用する各教科書
参 考 書	必要に応じ、随時プリントを配布。

回数	月 日	内 容
1	4月 ～ 11月	1) 歯科診療所臨床実習 ・診療室の環境整備 ・患者誘導 ・使用器具器材準備・後片づけ ・診療介助(バキューム、ライティング、器具器材の受け渡し) ・各種検査記録 ・印象採得介助 ・各種セメントの取り扱い ・各種仮封材の取り扱い ・口腔内写真撮影補助 ・スケーリング ・PMTGおよびPTC ・う蝕予防処置補助(シーラント、フッ化物塗布) ・TBIおよび保健指導
62	10月 ～ 3月	2) 県立中央病院歯科口腔外科実習 ・感染対応の見学 ・手指消毒および器具・器材の消毒・滅菌 ・院内の環境整備、診療前準備・後片づけ ・術前・術後の患者誘導および対応 ・患者対応のコミュニケーション ・歯科診療補助業務における共同動作 ・保健指導 3) すずかけの里実習 ・施設利用者の要介護度と全身疾患の理解 ・施設利用者の口腔内と口腔ケア内容の理解 ・専門的口腔ケアの見学及び介助

選択必修分野

隣接医学

看護学

時 間 数	30時間 (4時間×7回、2時間×1回)
担 当 者	田口真紀子(医療現場における看護師経験(34年)のある者が非常勤講師として専門科目を担当する。)、佐々木信子、(医療現場における看護師経験(26年)のある者が非常勤講師として専門科目を担当する。)、櫻田郁子(医療現場における看護師経験(28年)のある者が非常勤講師として専門科目を担当する。)、柿崎文代(医療現場における看護師経験(38年)のある者が非常勤講師として専門科目を担当する。)、佐々木美子(医療現場における看護師経験(39年)のある者が非常勤講師として専門科目を担当する。)、五十嵐智子(医療現場における看護師経験(29年)のある者が非常勤講師として専門科目を担当する。)、ニッ森智子(医療現場における看護師経験(23年)のある者が非常勤講師として専門科目を担当する。)、時安央乃(医療現場における看護師経験(27年)のある者が非常勤講師として専門科目を担当する。)、中野のぞみ(医療現場における看護師経験(22年)のある者が非常勤講師として専門科目を担当する。)、田中桂子(医療現場における看護師経験(29年)のある者が非常勤講師として専門科目を担当する。)、早坂桂子(医療現場における看護師経験(38年)のある者が非常勤講師として専門科目を担当する。)
一 般 目 標	歯科衛生士として知っておきたい医療従事者としての心得及び看護の知識を習得する。
成 績 評 価	定期試験、授業態度、出席状況等の総合評価。(講師の方針で決定)
教 科 書	「歯科衛生士のための看護学大意 第2版」 医歯薬出版
参 考 書	必要に応じ、随時プリントを配布。

回数	月 日	講 義 内 容
1	9月14日	歯科衛生士のための看護学
2	9月14日	歯科衛生士のための救急看護
3	9月19日	歯科衛生士のための看護学(コミュニケーション学)
4	9月20日	歯科衛生士のための医療安全
5	9月21日	歯科衛生士のための救急看護
6	9月26日	歯科衛生士のための地域連携
7	9月29日	歯科衛生士のための感染対策
8	10月6日	歯科衛生士に必要な看護業務

選択必修分野

介護技術論

介護技術論

時 間 数	32時間(8時間×4回)
担 当 者	工藤令(医療現場や介護施設において、社会福祉士としての介護経験(27年)のある者が非常勤講師として専門科目を担当する。)、羽部清隆(医療現場や介護施設において、社会福祉士としての介護経験(25年)のある者が非常勤講師として専門科目を担当する。)、大内理恵(医療現場や介護施設において、社会福祉士としての介護経験(18年)のある者が非常勤講師として専門科目を担当する。)
一 般 目 標	1. 介護に関する基本的な知識や技術を習得し今後の業務に役立たせる。 2. 介護が必要な場面において、自ら進んで援助できる。 3. 地域包括ケアを理解し、様々な社会資源を有効に活用できるようになる。
成 績 評 価	定期試験、授業態度、出席状況等の総合評価。
教 科 書	
参 考 書	必要に応じ、随時プリントを配布。

回数	月 日	講 義 内 容
1	9月6日	「介護」とは(理念、専門技能) 身体介護のポイント(移乗、移動)
2	9月7日	認知症の理解 認知症の症状 認知症の人への支援
3	9月11日	介護保険制度について 介護過程について ICFシートを活用したアセスメント～プランニングまで
4	9月12日	コミュニケーション技法 ・コミュニケーションの技法 ・援助的コミュニケーション
5	9月25日	社会資源の目的と必要性 地域包括システムと地域共生社会
6	9月25日	社会資源の活用事例検討 社会資源の生理建て、活用手法

選択必修分野

患者対応

手話

時 間 数	16時間 (2時間×8回)
担 当 者	青森県ろうあ協会 七島一男(聴覚障害者情報センターにおける手話指導者経験(14年)のある者が、非常勤講師として専門科目を担当する。)
一 般 目 標	歯科衛生士として、聴覚障害を持つ患者との信頼関係を築くため、聴覚障害について理解と認識を深め、会話に必要な手話技術を習得する。 歯科衛生士として、聴覚障害を持つ患者との信頼関係を築くため、聴覚障害
成 績 評 価	実技(毎回の授業状況、読み取り試験を含む)で評価。
教 科 書	手話テキスト『聴さんと学ぼう』
参 考 書	必要に応じ、随時プリントを配布。

回数	月 日	講 義 内 容
1	9月15日	手話の基礎： 聴覚障害とは・コミュニケーション法 簡単な挨拶
2	9月22日	手話の基礎： 挨拶 指文字
3	9月29日	手話の基礎： 聴覚障害者の生活(家族とのコミュニケーションの取り方) 指文字
4	10月6日	手話の実際： 診療室でよく使われる言葉。 指文字
5	10月13日	手話の実際： 診療室でよく使われる言葉。 自動車免許について、仕事
6	10月20日	手話の実際： 診療室でよく使われる言葉。 復習
7	10月27日	診療室内での会話。病院で困ったこと。 手話通訳制度について。
8	11月10日	まとめと復習 読み取り試験

選択必修分野

特別教養

一般教養

時 間 数	30時間 (2時間×15回)
担 当 者	太田 公 (企業や学校におけるフラワーデザイン講師経験(21年)のある者が、非常勤講師として専門科目を担当する。)、三原崇 (企業における書写技能者としての経験(39年)のある者が、非常勤講師として専門科目を担当する。)、平井佐和子 (企業における日本伝統文化普及師範としての経験(35年)のある者が、非常勤講師として専門科目を担当する。)、遠藤友紀(企業における日本伝統文化普及師範としての経験(17年)のある者が、非常勤講師として専門科目を担当する。)
一 般 目 標	人間性豊かな医療従事者となるために、広い方面での教養を身につける。
成 績 評 価	出席状況と授業態度、提出物で評価する。
教 科 書	
参 考 書	必要に応じ配布。

回数	月 日	講 義 内 容
1,2	5月26日	フラワーアレンジ
3	6月23日	着付け教室
4	6月30日	着付け教室
5	7月7日	着付け教室
6,7	8月25日	フラワーアレンジ
8,9	11月17日	フラワーアレンジ
10	1月19日	ペン習字 ペン字の基礎 ひらがな、カタカナ、数字
11	1月26日	ペン習字 ペン字の基礎 ひらがな、カタカナ、数字
12	2月2日	ペン習字 美しい文章の書き方
13	2月9日	ペン習字 美しい文章の書き方
14	2月16日	ペン習字 漢字の指導(六度法等)
15	2月16日	ペン習字 美しい履歴書の書き方(手本を元に練習後、各自清書作品を提出)